

持続可能な滋賀社会ビジョン「指標と目標」(案)

1 脱温暖化 温室効果ガスの1990年比半減

・ IPCCの報告によると、1906年から2005年までの過去100年間に地球の平均気温は約0.74℃上昇、最近50年間の長期傾向は、過去100年のほぼ2倍となっている。また、CO₂濃度は過去100年間で約1.4倍となっている。

・ 地球の平均気温の上昇が2℃～3℃以上である場合は、全ての地域において自然環境等から受ける恩恵が減少するか損失が増加すると報告されている。

・ IPCCの報告によると、気温上昇を2.0℃～2.4℃に抑えるためには、2050年におけるCO₂排出量を2000年比50%～85%の削減が示唆されている。

・ 国立環境研究所の脱温暖化2050プロジェクトの報告によると、世界の温室効果ガス排出量を1990年比約50%削減する必要に迫られる可能性があり、先進国である日本はそれ以上、たとえば60～80%削減を求められることが示唆されている。

2 琵琶湖流域の再生 琵琶湖の在来種の増加、県民の暮らしと琵琶湖の関わりの再生

・ 琵琶湖は、滋賀県をはじめ近隣府県にとって貴重な水資源であるとともに、漁業、観光、景観、文化芸術など多様な価値を持つ自然の宝庫である。

・ 琵琶湖の総合保全に取り組んできた結果、琵琶湖への流入汚濁負荷は減少している。しかし、このことが水質の改善には必ずしも反映されていないといったことや、漁獲量の減少、外来魚の増加、水草の異常繁茂、県民の暮らしと琵琶湖の関わりの喪失など様々な新しい問題、課題が生じてきている。

・ 琵琶湖をあずかる滋賀県が持続可能に発展していく、シンボリックな取り組みとして琵琶湖流域の再生を掲げる。多様な在来種でにぎわう琵琶湖を支える、安心・安全な水環境の確保と、「食」、「遊」、「住」など人々の暮らしと琵琶湖のつながりを、かつてのように深めることが求められる。